

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 25 日現在

機関番号：17102
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22615029
 研究課題名（和文） デザインの哲学的基礎付けに関する研究
 研究課題名（英文） Philosophical Foundation for Design
 研究代表者
 古賀 徹（KOGA TORU）
 九州大学・芸術工学研究院・准教授
 研究者番号：30294995

研究成果の概要（和文）：

デザインの哲学的基礎づけを意図する本研究は、まずもって、(1) 社会のなかですでに現実化されている工学的な設計（エンジニアリング）やその設計対象物に対する哲学的検証を行った。それは設計対象物のうちに物象化されている倫理規範の分析というかたちをとった。またこうしたいわば工学的設計に関する研究と並んで、(2) 従来のデザイン史やデザイン理論における問題についても哲学的検討を行った。

研究成果の概要（英文）：

Our research project, 'Philosophical Foundation for Design', aims to analyze (1) ethical norms latent to design object that already functions in the world. In addition to such critical/ethical analysis, we argue (2) traditional problems essential to design methodology.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：デザイン学

科研費の分科・細目：デザイン学

キーワード：デザイン、哲学、工学倫理、機能主義

1. 研究開始当初の背景

デザインについては哲学・美学研究の文脈

において、製品の機能と美との関係が整理されておらず、応用美術的な主張が成立する状

況であり、またデザインの実践的活動においても、その活動の認識論的・存在論的な基礎付けに関してそれを追究する余裕を欠いてきたという状況であった。

2. 研究の目的

これに対して本研究の目的は、近代デザインや設計の哲学的基礎に関して認識論的・存在論的・倫理的観点から考察を行うところにある。

3. 研究の方法

研究の方法は、近代デザイン、とりわけ機能主義や機能的設計の思想的背景を文献学的に明らかにすると同時に、現実の出来事に関する調査を行い、双方を媒介するかたちで、哲学的な考察を加える形をとった。

4. 研究成果

社会のなかですでに現実化されている工学的な設計(エンジニアリング)やその設計対象物に対する哲学的検証については、まず死刑に関する問題である。法務省は東京拘置所の死刑執行施設を報道機関に公開したが、その設計構造、とりわけ執行指揮者と刑壇とのあいだにガラスが埋め込まれ、音声が遮断されていることを手がかりとして、そうした設計を結果として生み出す刑執行の存在論的／認識論的構造を考察した。

またもう一つは原子力発電をめぐる問題である。自然物を改変し製品を作る過程は伝統的には同一の制作者に帰属していたが、産業革命以降、設計と労働は分化した。設計は科学的な基礎を持つことになるが、とりわけ2011年の福島原子力発電所の事故以降、学的理性が分業に基づき制作対象物を制御する存在論的意味／認識論的限界がそれ以降問題化している。本研究は、原子力発電にかんする認識論的／存在論的／

弁証法的考察を通じて、設計の限界についての原理的考察を行った。

従来のデザイン史やデザイン理論における問題についても哲学的検討については、いわゆるデザインコンセプトと呼ばれる設計の目的概念についての研究を行った。従来のデザインコンセプトに関する研究は、デザインを具体的に実践する方法論としての研究が主流であり、工学的設計の目的概念(機械的概念)から区別されるかたちで、デザインコンセプトを認識論的・存在論的に考察することが不十分であった。本研究はこうした状況において、ドゥルーズとガタリ概念論をベースとして、デザインを可能とする概念が有機的なものであることの可能性と必然性を論じ、さらには自然物に関して議論される彼等の概念論を人工的制作物に応用する条件について明らかにした。

それと平行するかたちで本研究は、戦後ドイツで展開した機能主義に対するさまざまな批判、とりわけウルム造形大学のいわゆる機能主義的な形式美学に対する批判の諸形態について調査し、それについての哲学的検討を行った。機能主義は、人間の身体的機能の有機的拡張として環境を再構成しようとするものだが、しかしそれが人間から独立したひとつの客体的連関となって人間をむしろ圧迫する状況が戦後のドイツではアドルノらによって問題視された。アドルノといった哲学者だけでなく、多くのデザイナーやデザイン理論家がこうした状況を引き受け、現代の欧米のデザイン思想の背景を形成する様々な機能主義批判の類型が生まれた。そこで機能主義は、あたかも生物の器官であるかのごとくに、人間の意図や人間にとっての意味とは無関係に、つまり客体的に機能を捉えているとして批判される。本研究は、とくにクリッペンドルフの製品意味論やオッフエンバッハ学派の製品言語論を取り上げた。彼等の理論は、たしかに機能主義が陥った機能の客体主義や物象化を乗り越え、それを人

間中心のデザインに転換しうる可能性を示すものとして評価できる。だがその一方で、それらが依拠する意味論の主観主義的・相対主義的側面に議論の余地がある。そこで、彼等の理論をヴィトゲンシュタインの言語論やパースの記号論から再検討することを通じて、その哲学的な問題性を明らかにし、それを乗り越える可能性を本研究は示唆した。

平成 22 年度には文献調査を基本として、研究協力者とともに、その成果の一部をホームページ上に公開した。平成 23 年度には、

東日本大震災の発生と福島原発事故を受けて研究内容を一部変更し、おもに工学的な設計論の観点から設計の認識論的・倫理的な研究を行い、論文として公表した。

平成 24 年度には、現代デザインにおけるコンセプト論について日本デザイン学会で発表し、その成果を論文として公表した。また、機能主義の哲学的基礎について研究協力者と共同して研究を行い、その成果を科研報告書として公表した。



図版 1 科学研究費補助金研究成果報告書『デザインの基礎付けに関する研究』, 2013.3, A5 版, 全 60 頁.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①古賀徹, 死刑場の設計(Design of Execution Place), 西日本哲学年報19号, 109-125頁, 2011.9.

②古賀徹, 原子力発電の哲学 (Philosophical Criticism of Nuclear Electric Power Technology), 哲学(北海道大学哲学会) 48号, 7-48頁, 2012.8.

③古賀徹, デザインにおけるコンセプト - ドゥルーズ/ガタリ の概念論をもとにして (Concept in Design-From the Theory of Deleuze and Guattari), 芸術工学研究 (九州大学芸術工学研究院)18号, 43-49頁, 2013.3.

④古賀徹, デザインにおける機能と意味-機能主義批判の哲学的考察, 科学研究費補助金 研究成果報告書『デザインの哲学的基礎付けに関する研究』, 6-30頁, 2013.3.

⑤世利幸代, モダン・デザインの思想的源流 - カント美学における装飾の定義について, 科学研究費補助金研究成果報告書『デザインの哲学的基礎付けに関する研究』, 31-45頁, 2013.3.

[学会発表] (計 3 件)

①世利幸代, マックス・ビルの『グーテ・フォルム』における造形理論, 日本デザイン学会, 長野大学, 2010.7.

②古賀徹, デザインにおけるコンセプト - ドゥルーズ/ガタリ の概念論から, 日本デザイン学会, 札幌市立大学, 2012.6.23.

③世利幸代, Th. W. アドルノにおける機能と装飾の弁証法的関係, 日本デザイン学会, 札幌市立大学, 2012.6.23.

[研究報告書] (計 1 件)

①古賀徹, 科学研究費補助金研究成果報告書『デザインの基礎付けに関する研究』, 2013.3, A5 版, 全 60 頁.

[その他]

ホームページ等

デザイン関連書籍に関する書評

<http://kogatoru.sakura.ne.jp/design/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古賀 徹 (KOGA TORU)

九州大学・芸術工学研究院・准教授

研究者番号: 30294995

(2) 研究協力者

世利 幸代 (SERI YUKIYO)

九州大学・芸術工学府・博士課程

笹野 正和 (SASANO MASAKAZU)

九州大学・芸術工学府・博士課程